

成績評価の方法と基準					
評価の領域	評価基準	学習成果の割合			
		L01	L02	L03	L04
授業参加態度	講話を集中して聴き、板書した内容だけでなく、重要だと判断したことは主体的にノートに書き取ること。疑問に思ったことを臆さずに質問できるとたいへん好ましい。演習での積極性は高く評価する。	20			
レポート／作品	演習後のリアクションペーパーの内容を評価の対象にする。演習に真摯に取り組む、その体験から得たことを的確に文章化できていることを期待する。	5			
発表					
小テスト	日常の努力点として勘案。小テストを復習すれば、学年末試験での成果が期待できるしくみである。			15	
試験	設問への妥当な回答、学習の成果が反映されている回答がなされることが評価の要件となり、日常生活における事象・事例の記述や演習体験、多角的な視点からの考察はおおいに加点の対象になる。			60	
その他					
合 計		25		75	

回数		授業計画
1	授業内容	オリエンテーション:心理学とは こころの存在へのアプローチ 心理学の誕生と発展 心理学の領域
	事前・事後学習	ポイントを授業内で知らしめるので、事後学習として、普段疑問を感じている一般的な対人的現象、人間行動的矛盾をノートに書き出す。これが次のための事前学習ともなる。
2	授業内容	子どもの発達①発達段階
	事前・事後学習	自身の幼い頃の記憶や、近くの幼い子どもの発達について思い浮かべ、発達の学習へと結びつける。
3	授業内容	子どもの発達②愛着・グループ形成
	事前・事後学習	発達の中でどのように変化が起こるのかまとめておく。また、小テストに備えると共に、返却された前回小テストを用いて、失点部分の学習を補う。
4	授業内容	社会心理学①説得
	事前・事後学習	今までの経験の中で、どのように態度変容が起こってきたのか振り返る。また、対策としてどのようなことが考えられるか具体例を挙げておく。
5	授業内容	社会心理学②集団・リーダーシップ
	事前・事後学習	今までの意思決定の中に、集団に同調したような経験があるのか振り返る。また、小テストに備えると共に、返却された前回小テストを用いて、失点部分の学習を補う。
6	授業内容	学習と行動①
	事前・事後学習	自己の今後の学習の中で、今回の内容がどのように有効活用できるのか、具体的に書き出す。
7	授業内容	学習と行動②
	事前・事後学習	自己の今後の学習の中で、今回の内容がどのように有効活用できるのか、具体的に書き出す。また、小テストに備えると共に、返却された前回小テストを用いて、失点部分の学習を補う。
8	授業内容	認知・記憶①

	事前・事後学習	人間の記憶のメカニズムについて復習を行う。
9	授業内容	認知・記憶②記憶の干渉・ヒューマンエラー・記憶錯誤
	事前・事後学習	記憶錯誤や忘却によるトラブルを防ぐための対策をノートにまとめる。また、友人の学習方法を聴き、自己の学習スタイルを点検する。また、小テストに備えると共に、返却された前回小テストを用いて、失点部分の学習を補う。
10	授業内容	感情:我々の感情 感情の役割 感情の発達
	事前・事後学習	事前学習として感情が原因の失敗経験を挙げておく。事後学習として、それらの経験に対しどのような対処が有効であるかを分析する。
11	授業内容	感情と欲求:欲求不満と葛藤 欲求不満耐性
	事前・事後学習	自分がどういう場面で欲求不満を感じ易いかを事前に点検しておく。事後学習として、授業で得た知識も参考にしながら、自分の場合は欲求不満耐性を培うのにはどのような方法が有効であるかを分析する。また、小テストに備えると共に、返却された前回小テストを用いて、失点部分の学習を補う。
12	授業内容	動機づけ
	事前・事後学習	日常場面での自身の動機づけについて振り返り、今後どのように活用することができるか考える。また、小テストに備えると共に、返却された前回小テストを用いて、失点部分の学習を補う。
13	授業内容	臨床心理学①適応と不適応:精神分析理論 適応のメカニズム
	事前・事後学習	事後学習として、適応機制のそれぞれに対し、身近な実例をノートに挙げる。
14	授業内容	臨床心理学②心理的援助技法
	事前・事後学習	事後学習として、自分のコミュニケーション能力の長所と短所を再確認する。また、小テストに備えると共に、返却された前回小テストを用いて、失点部分の学習を補う。
15	授業内容	心理学の可能性:日常生活の中に心理学を活かす
	事前・事後学習	事後学習として、これまでの情報を有効活用できる形に再編成し、期末試験に臨む。